

「栃木県のがん2017(平成29年)」 (栃木県がん実態調査報告)について

全国がん登録 2017(平成29)年症例 罹患数・率
・2020(平成31)年4月 報告書公表

- 栃木県版報告書の作成
「栃木県のがん2017(平成29年)」

1. 罹患の概要

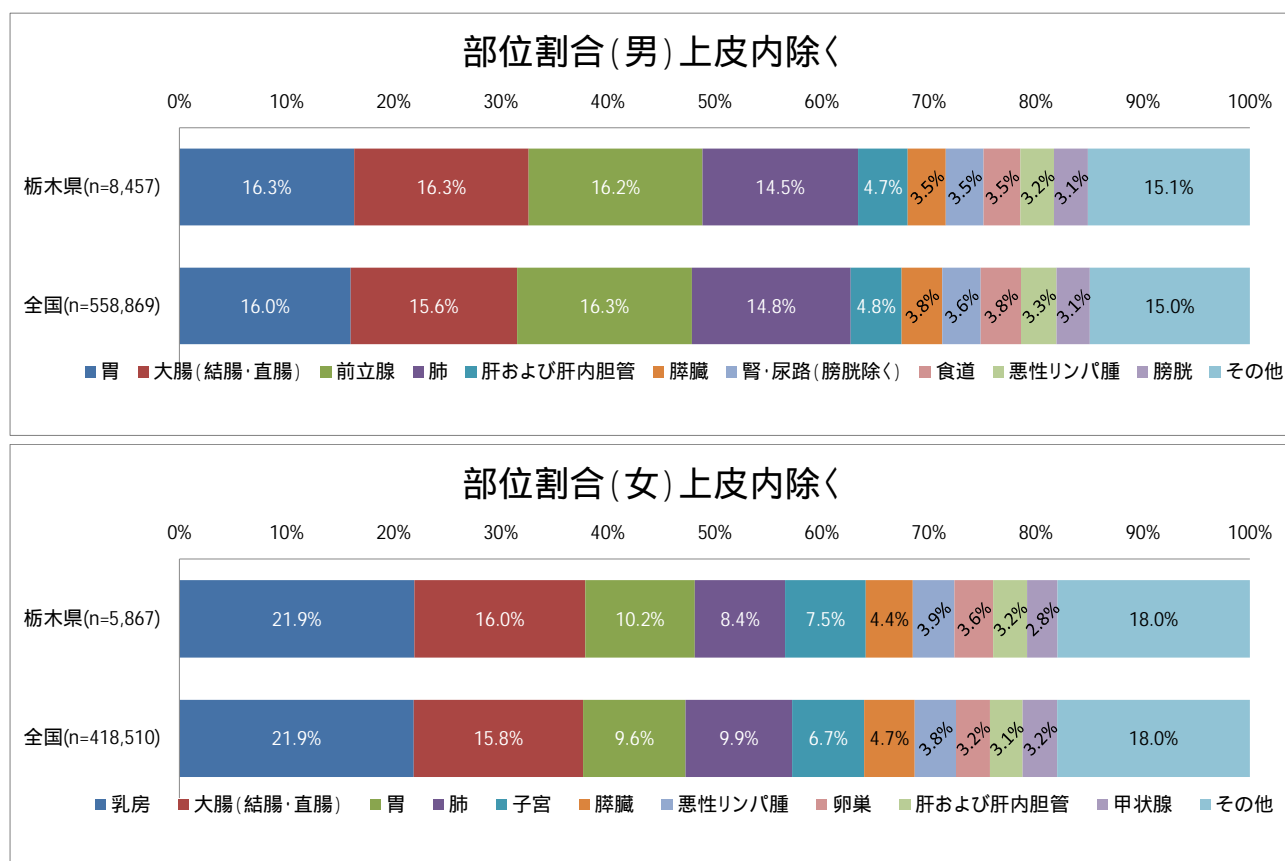
(1) 罹患数及び罹患率

上皮内がんを除く全部位の罹患数(C00-C96)は14,324件(男性8,457件、女性5,867件)であった。罹患率人口10万対では731.9(男性868.3、女性596.8)、年齢調整罹患率は372.0(男性438.4、女性322.9)であった。

罹患数を部位別に多い順にみると、男性では胃(1,381件、16.3%)、大腸(1,379件、16.3%)、前立腺(1,372件、16.2%)、肺(1,229件、14.5%)、肝(394件、4.7%)であった。女性では、乳房(1,287件、21.9%)、大腸(937件、16.0%)、胃(601件、10.2%)、肺(495件、8.4%)、子宮(442件、7.5%)であった。

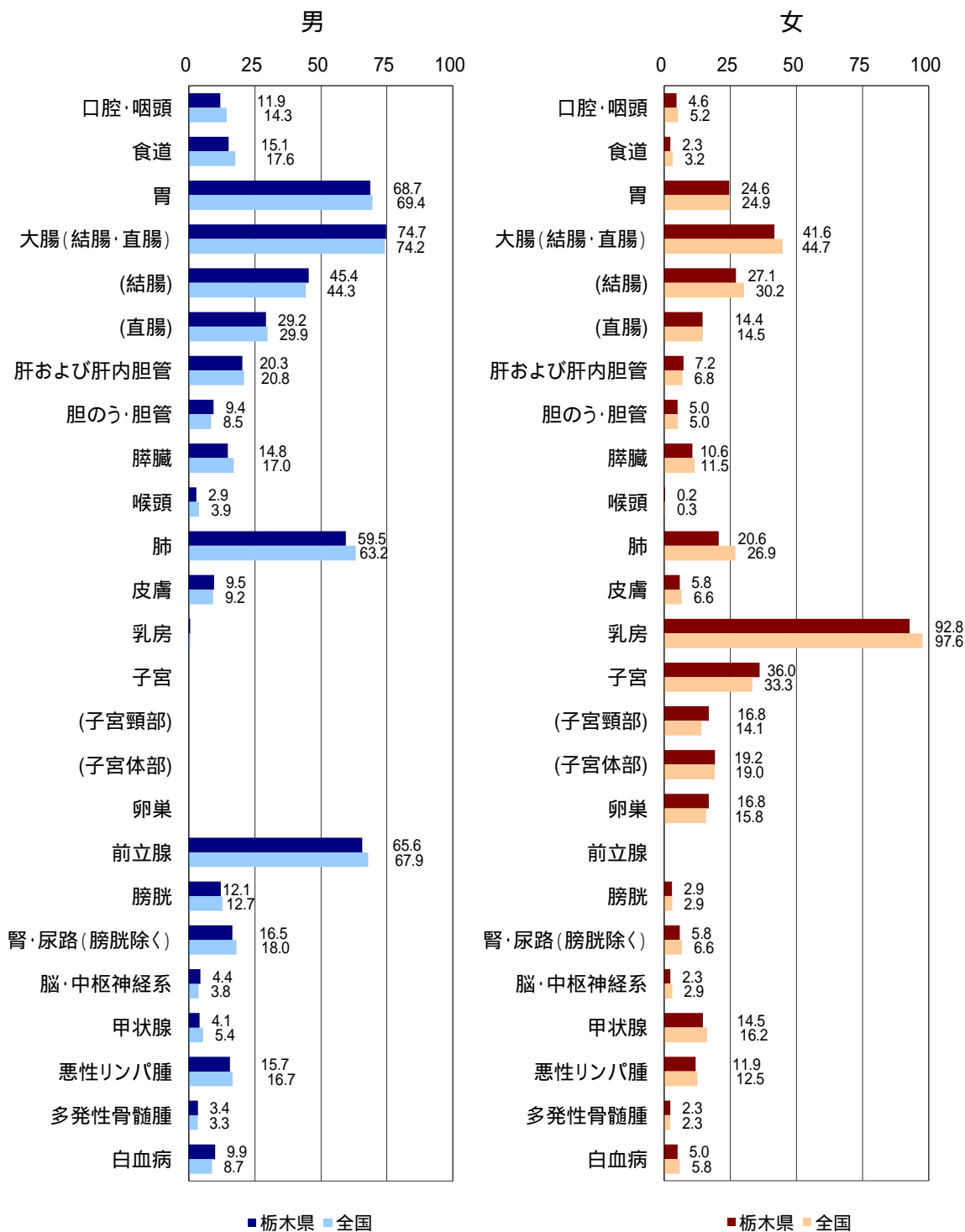
全国と比較して、それぞれの部位の占める割合は大きく変わらないが、全国では男性は、前立腺、胃、大腸、肺、肝の順であった。女性は乳房、大腸、肺、胃、子宮の順であった。

【図1A】



罹患率(人口 10 万対)は 731.9(男性 868.3、女性 596.8)で、全国の罹患率 771.4(男性 906.4、女性 643.4)と比較してやや低かった。

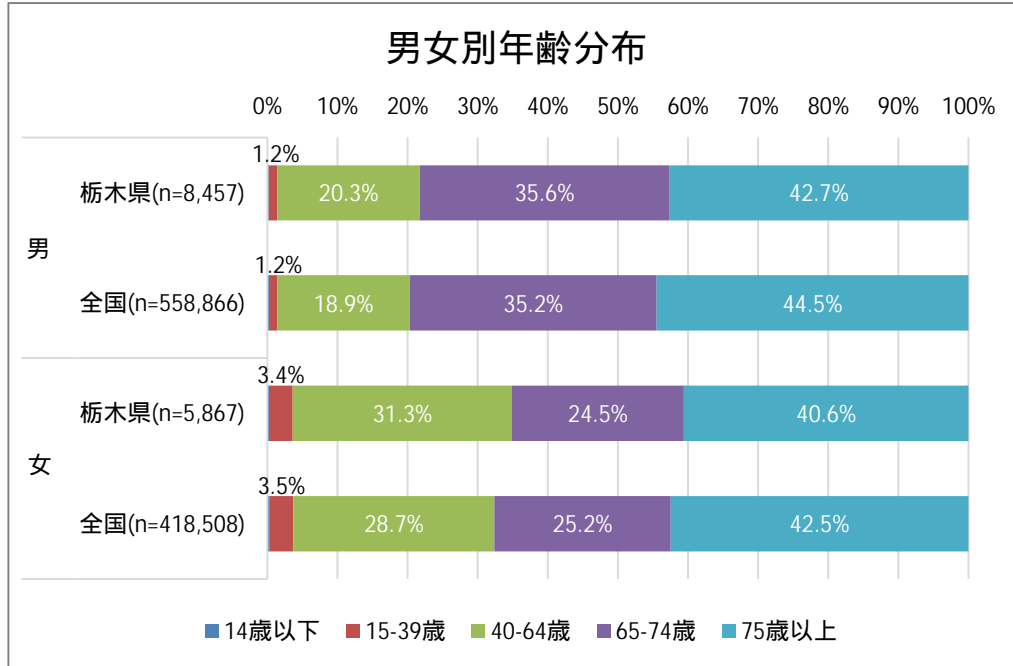
【図 1 B】年齢調整罹患率



(2) 年齢別罹患

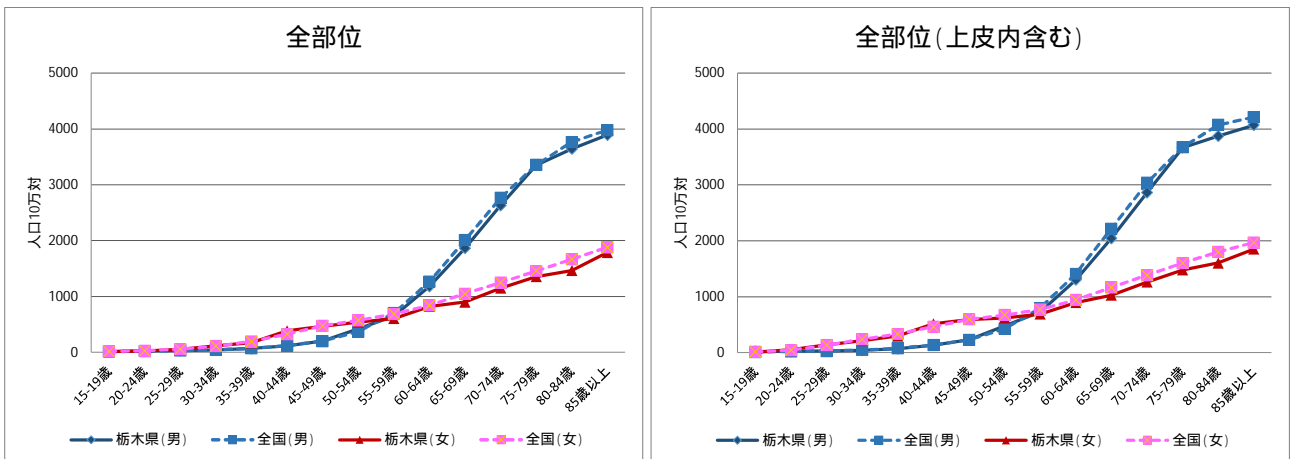
年齢別では、2017年に新たにがんと診断された65歳以上の割合は男性78.3%、女性65.1%であった。全国においては男性79.7%、女性67.6%で男女とも栃木県の方が若い年齢の割合が高かった。

【図2】

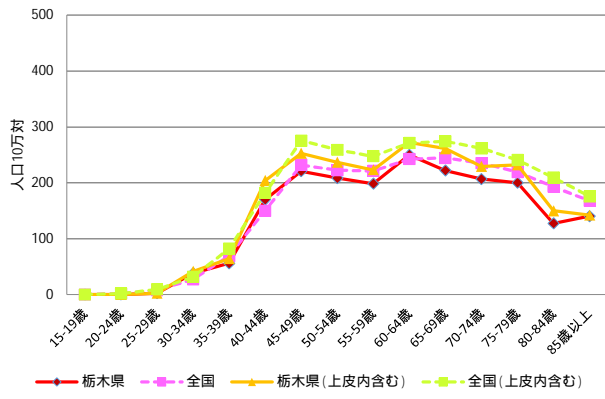


年齢階級別罹患率を全国と比較すると、全部位の男性では年齢階級が高くなるほど全国に比べて罹患率が低くなった。女性も低い傾向がみられた。

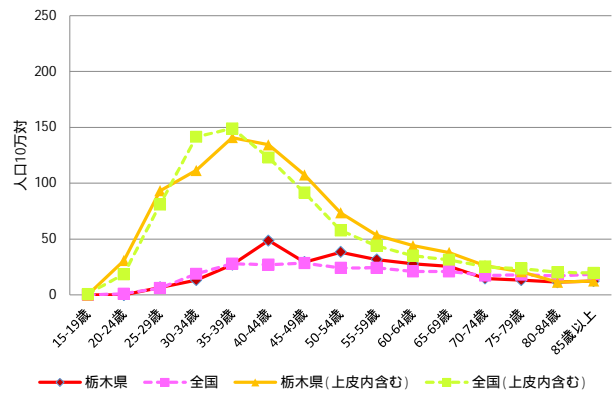
【図3】年齢階級別罹患率



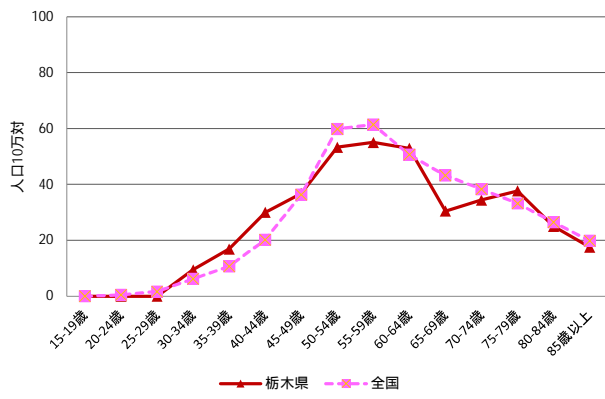
乳房(女性)



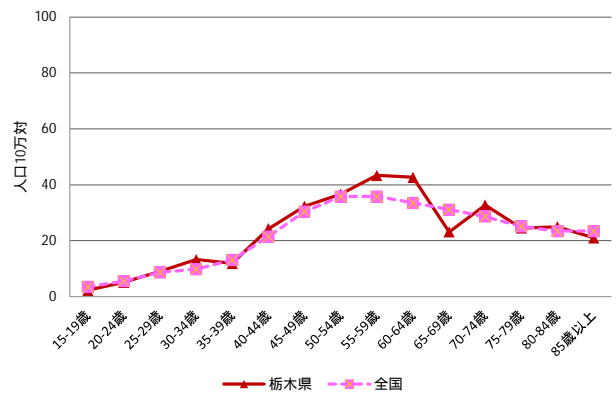
子宮頸部



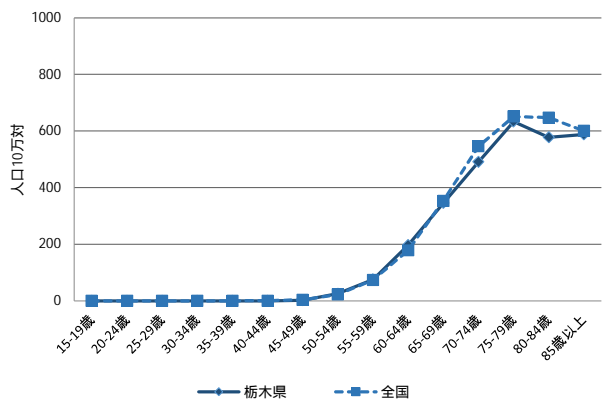
子宮体部



卵巢



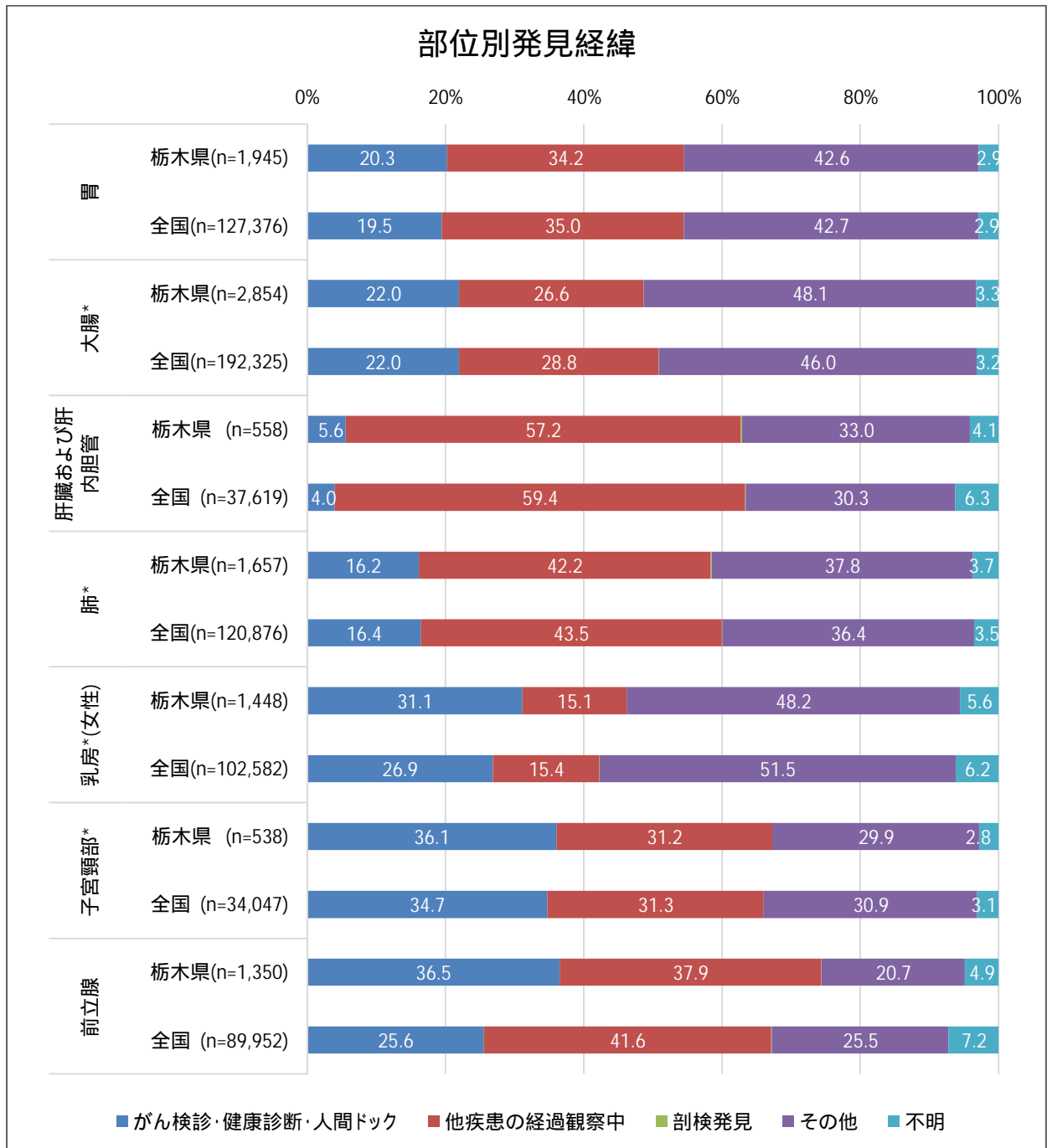
前立腺



(3) 発見経緯

部位別発見経緯では、がん検診・健康診断・人間ドックによる検診等発見割合が、胃(20.3%)、大腸(22.0%)、肺(16.2%)、乳房(31.1%)、子宮頸部(36.1%)、前立腺(36.5%)であった。胃、大腸、肺の検診等発見割合は全国とほぼ同等であるが、乳房、前立腺は検診等発見割合が全国より高かった。

【図4】



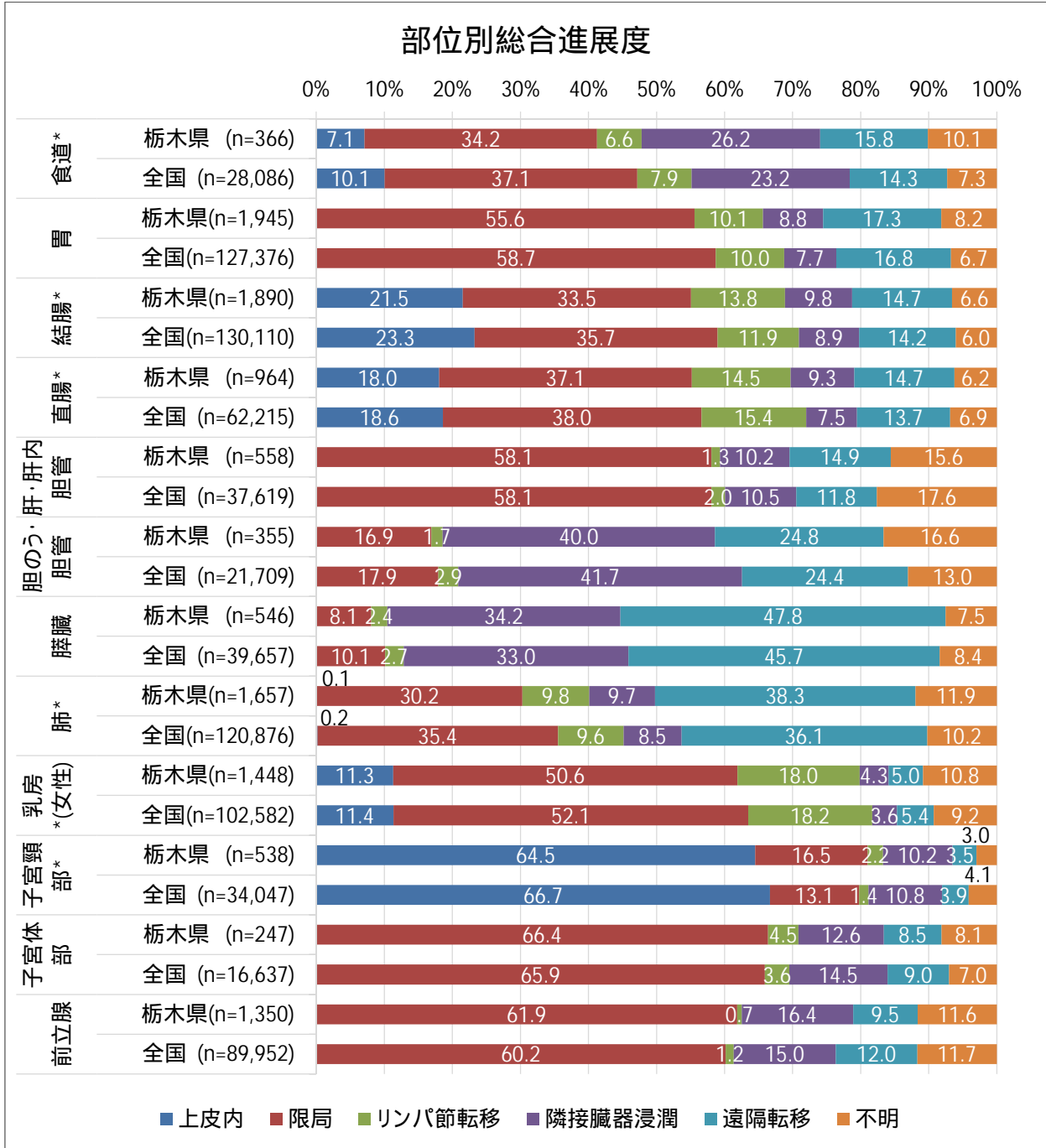
* 上皮内がんを含む。

(4) 総合進展度

胃、大腸のように上皮内・限局が 50～60%を占めるもの、子宮頸部、子宮体部、乳房、前立腺のように 60%を超えるもの、反対に膵臓、胆のう・胆管、肺のように 40%に満たないものがあった。

前立腺以外は全国と比較して上皮内・限局の占める割合が低く、乳房、子宮頸部、子宮体部、前立腺以外は遠隔転移の占める割合が高い傾向がみられた。

【図 5】



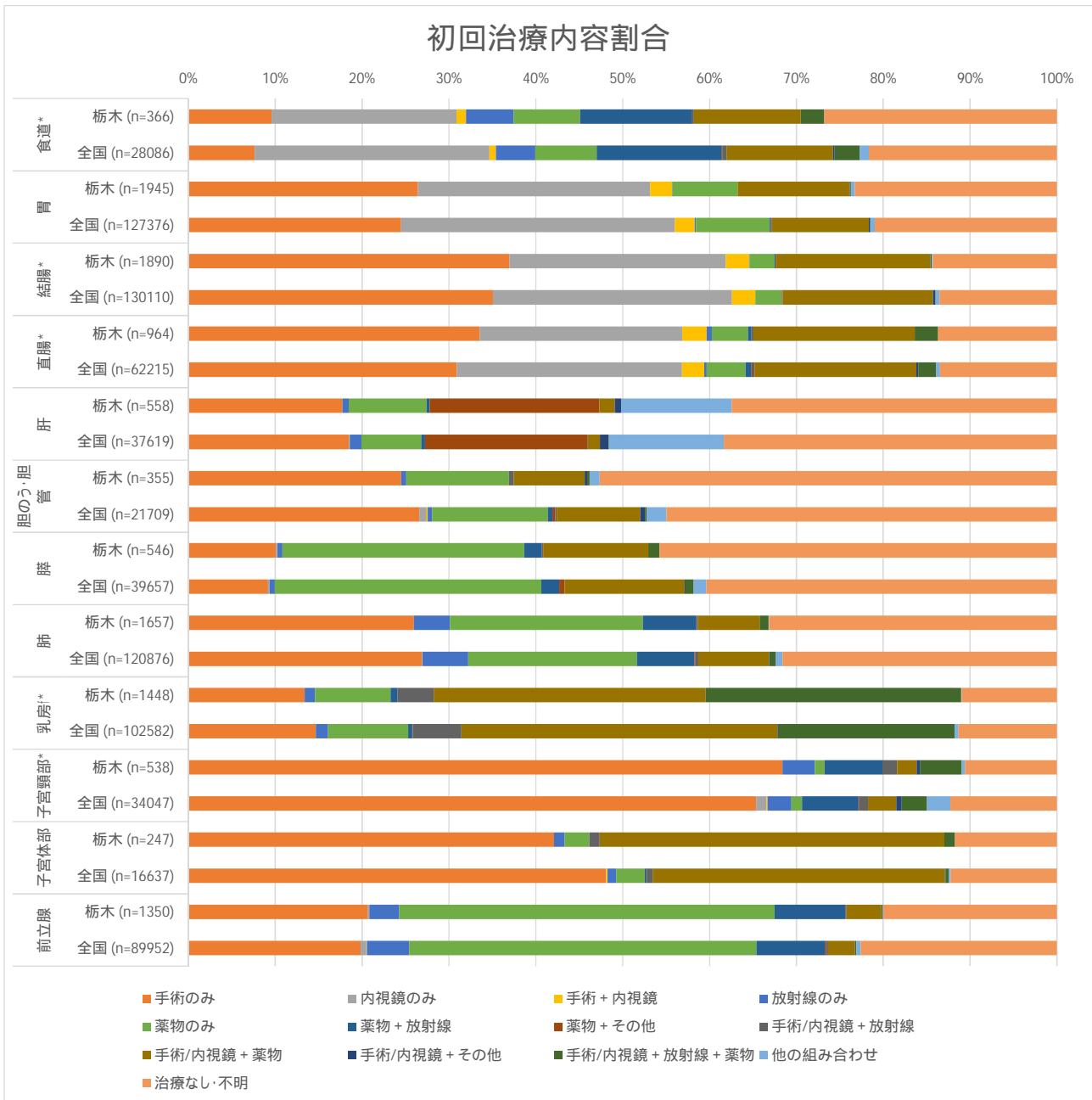
* 上皮内がんを含む。胃の限局にはmがんを含む。結腸・直腸の上皮内はmがんまでを指す。子宮頸部の上皮内はCIN を含む。

(5) 初回治療

がん登録における初回治療は、当該がんの縮小・切除を意図したがん組織に対する治療（「腫瘍に対する治療」という）のうち、当該がんに関する最初の診断に引き続き行われた、腫瘍に対する治療とする。

主な部位別に治療の内容を分類し、割合を示す。部位によって、特徴があり、全国と栃木県は同じような傾向を示す。しかし、初回治療の内容は診断時の進行度、年齢や併存症などに影響されることを考慮しなければならない。

【図6】



* 上皮内がんを含む。

2. 死亡の概要

2017年1年間で5,792人(男性3,525人、女性2,267人)が、がんを原因として死亡した。部位別では男性で肺が最も多く、胃、大腸、肝、膵と続く。女性では大腸が最も多く、肺、胃、乳房、膵の順であった。全国の死亡順位は男性では栃木県と同じで、女性では、大腸、肺、膵、胃、乳房の順であった。

年齢調整死亡率では、男性で胃が全国より高い傾向がみられた。

【図7】年齢調整死亡率

